

●論壇

自動車のソフトウェア

林 雄二郎*

The Software of the Automobile

Yujiro HAYASHI*

「産業構造の知識集約化とは、すべての産業が、そのソフトウェアコンテンツ（つまりソフトウェアの比重）を高めることである」というのが私の主張であり、またこれからの産業の進むべき方向であると思っているが、特に製造工業の場合、このソフトウェアに2つの種類がある。そのひとつは、その財をつくるためのソフトウェア、そしてもうひとつは、その財を使うためのソフトウェアである。今まで、産業構造が次第に高度化してきて、高度加工工業の比重がだんだん高まってきたということは、とりもなおさず、前述の分類でいえば前者のソフトウェアのコンテンツが高まってきたことを意味する。

ところで、私は、これからの社会においては、特に前述の分類でいう後者のソフトウェアの重要性が注目されなければならないと思っている。すなわち、各種の製造工業で、つくられる財を、どのように使うべきかということについてのソフトウェアである。これを、自動車工業についていえば、自動車の使い方についてのソフトウェアということになるだろう。今日、自動車をつくる会社は、同時にそれを売るための機能を大いに重視し、多くの会社は、そのための会社を独立に持っている。そして、それらは単に自動車を売るというだけでなく、自動車を使うことについてのソフトウェアの開発に力を注いでいるように思われる。私は、前述の“財をつかうためのソフトウェア”がこれから重要になるべきだという観点から、これからは、第2次産業と第3次産業の中間的な、いわば2.5次産業とでもいうべき産業が重要な意味を持つようになるだろうと思っているのだが、そのような視点から、今日の自動車工業を見直してみるとどうということになるであろうか。産業分類的にいえば、自動車製造業は第2次産業、自動車販売業は第3次産業ということになるのだろうけれども、販売会社が、ただ自動車を売るということだけに終始している限り、それは“自動車を使うためのソフトウェア”を持っているとはいえない。なぜなら、自動車を買うことは、自動車を使うための、ひとつの必要条件ではあるかも知れないが、決して必要条件のすべてではなく、ましてや十分条件ではあり得ないからである。

そこで、これからは、自動車の使い方についてのソフトウェアがあらためて開発されなければならない。それが、自動車をつくる機能の延長として開発されるべきか、あるいは自動車を売る機能の延長として開発されるべきか、あるいはまた、そのいずれでもなく全く新しく開かれるべきかはともかくとして、いずれにせよ私がさきに述べた2.5次部門として新しい機能を持つべきものであると思う。

そのためには、いわゆるクルマ社会とは、どのような社会であるのか、その社会での人間の価値観はどう変わりつつあるのか、その社会における社会的機能はどのように変わってゆくのか、そうしたことに對する根本的な研究が必要になってくる。いわゆるクルマ社会とは、決してクルマとそれに乗る人だけが対象になるものではない。公害問題や安全問題がおこってきたゆえんは、私たちがいままで、クルマに乗る人だけのクルマ社会を考えてきたためであり、したがって、私のいう自動車の使い方についてのソフトウェアとは、決して自動車の運転法とか、自動車による旅行の仕方といったようなことだけではないことがわかっていただけると思う。

* (財) 未来工学研究所長
President, Institute for Future Technology